

## ⑥横浜唯一の渓谷(陣ヶ下渓谷)と水道の歴史を学ぶ

2018.05.17 作成

・2018年6月13日(水)9:30 相鉄線上星川駅

・中川駅 8:38-9:05 横浜駅 9:14-9:27 上星川駅 (横浜駅では 相鉄線1番線・各駅停車に)

相鉄上星川駅—両郡橋—稲荷橋—随流院—杉山神社—陣ヶ下渓谷(高架下を200m)—環状2号の脇の歩道(500m)—公園の南口—(みずのさかみち)—横浜水道記念館—(バス)—上星川駅

上星川駅の南口から階段を下ります。帷子川を両郡橋で渡り、交番の角から帷子川堤防の上の路地裏道を歩きます。稲荷橋には銘板がないので青色の橋が目印。随流院には裏口から入ります、手入れの行き届いた禅寺です、ゆっくりと拝観しましょう。環状2号の高架下の陣ヶ下渓谷ひろば公園を過ぎると、右手に杉山神社が見えるので立ち寄ります。

高架下を進むと「陣ヶ下渓谷入口」の表示があります。

高架下の山道を200mほど進むと分かれ道、

「左:保育園口・溪流、右:杉山神社口」の表示、左に少し行くと溪流が右下に見えますが橋がありません。

坂道をさらに50m上ると、保育園口で横浜環状2号の脇の歩道にでます。歩道を500mほど南西に進むと、公園の南口に着きます。(渓谷を見下ろし SkyWalk 気分です) 公園を少し散策します(みずのさかみち)。

環状2号を潜り、上り坂を行くと、水道みち向台公園、先に横浜FC・LEOC トレーニングセンターがあり、角を東に曲ると西谷浄水場、横浜水道記念館、です。ここで一旦解散とします。

・水道記念館をゆっくり見学後、バスで上星川駅又は横浜駅西口経由で帰ることをお勧めします

尚、水道記念館から上星川までは急な下り坂1kmです。(上星川駅前にはスーパー銭湯「満天の湯」があります)

\*C班も、同じコース(杉山神社はSKIP)頑張りましょう。

### 資料編

#### 上星川駅(相鉄線)

大正14年(1926)に神中鉄道の星川駅として開業。昭和8年(1933)に上星川に改称しました。星川の地名の由来は、平安時代から見られ、松や杉の木立で鬱蒼としており、昼なお暗く川の流れを星影に映した、といわれたことに由来するという説があります。

#### 両郡橋

明治20年に我が国最初の近代水道の創設に伴い、津久井郡三井村から横浜村まで水道管が敷設されました。その後、水道管に沿って人馬の往来ができるようになり、この橋も架けられました。都筑郡上星川村と橋樹郡坂本村の境ということで両郡橋と名付けられました。橋の上流には堰や用水路、近くには水車もあったと伝えられています。



## 随流院 (曹洞宗 川島山)

臨済宗建長寺派の和尚が、嘉吉4年(1441)に開基。観音寺と称したといひます。慶安元年(1648)には江戸幕府より寺領3石の御朱印を拝領。小机雲松院の第八世宋栄和尚が曹洞宗寺院に改め中興開山したといひます。本尊は聖観音菩薩像です。寺院は帷子川沿いであつて、境内の庭はよくつくられていて美しい寺院です。

鐘楼の梵鐘には『春は花 夏ほととぎす 秋の月 冬雪さえて すずしかりけり』この歌は道元禅師が読んだものです

川端康成が昭和43年ノーベル賞受賞記念講演で「美しい日本の私」の冒頭で、この歌をもってきました。



随流院は丘陵の裏側にあるので、本堂の裏はこのあたりでは珍しい自然林が広がっています。湧き水はこの自然林から湧き出しています。江戸時代の終わり頃から明治の初めまで、随流院は子どもたちが勉強する寺子屋がありました。その後川島学舎になり、川島小学校になりました。

## 川島杉山神社

天文年間(1532~1555)北条氏康が上杉朝定との戦で、この地に陣を置いた際、日本武尊の東夷征伐を夢にみたのを、戦勝の前兆であるとして祠を建て、戦いに大勝した後、社殿を築造しました。また、氏康は戦乱の世に領民を救済するため、農業だけでなく林業も推奨し植林の神である五十猛命(たけるのかみのみこと)を祀りました。



陣ヶ下溪谷(じんがしたけいこく) 市沢川の溪谷の部分を指します。鎌倉時代に源頼朝のご家人である、

和田義盛が狩りの陣を張ったので名が付けられた横浜で唯一「溪谷」と呼ばれている谷です。陣ヶ下溪谷といわれているように、乾季でも晴れの日が続き、水が少なくなった時でないと、溪谷を渡ることはできません。



2001年、環状2号線が通るのに伴い、山林を都市公園として整備。2004年、陣ヶ下溪谷公園として一般公開。又、陣ヶ下高架橋は「土木学会デザイン賞、2003年」を受賞しています。

「円柱の橋脚が森の中の巨木のようにつらなり、周囲の自然に融けこんでユニークな景観」

陣ヶ下溪谷公園入口(杉山神社側の高架下)

## 和「田義盛

平安時代末期から鎌倉時代にかけての武将・御家人。三浦氏の一族で源頼朝の拳兵に参加。鎌倉に頼朝の初期武家政権をつくられると、初代別当に任じられた。平家追討、奥州征伐に功あり、頼朝の信任厚く、鎌倉幕府の有力な御家人のひとりです。



## みずのさかみち

この坂道の名前は、坂の途中に鶴ヶ峰浄水場から西谷浄水場へ繋がる、水道管が埋設されていることからつけられました。この坂は平成2年に「ふるさと坂道二十景」に選ばれ「手作り郷土賞」を受賞しました。隣接する陣ヶ下溪谷公園の入口にもなっていて、ゆったりとした雰囲気は歩く楽しみを一層深めてくれます



陣ヶ下溪谷公園南口にある水の橋(獅子頭共用柱のデザイン)、橋の向こう側は環状2号をくぐるガードその先の坂の上には「水道みち向台公園」があります。



さらにその先は、横浜FCのLEOC(レオック)トレーニングセンターがあります。

### 横浜市水道記念館

横浜の水道の歴史や水道の仕組みが一目でわかるように、パネルや映像で解説している水道に関する博物館です。地上4階、地下1階の建物で、1階が近代水道の歴史、2階が現代の水道事業、3階が図書・資料コーナーです。

敷地内には別棟の水道技術資料館があり、明治の頃の水道建設の解説があり興味深いです。



屋外には、大型の導水管、や逆水弁のほか、ガラス張りで展示されている噴水塔があります。この噴水塔は、明治14年(1887)に当時の横浜駅(現・櫻木町駅)に設置されたもので、イギリス製です。

**西谷旧配水計量室** (下の写真水道記念館からはバスで帰ります、バスから見えます)

レンガ造りの建物は西谷浄水場から桜木町、元町、本牧方面に給水する配水管の量を計る量水装置を設置するために、大正3年に建設されました。日本で初めて近代水道として明治20年に創設された横浜水道が、昭和62年に100周年にあたり、横浜水道記念会館への玄関口として保存し公開することにしたものです。ここからは、急坂を下って蔵王高根神社を過ぎたら上星川駅です。



\* 横浜水道記念館の前のバス停から上星川・和田町・横浜駅西口行きのバスで帰ります。(上星川まで1kmですが)

西谷浄水場バス停 相鉄バス(浜16、浜19)

11:08 11:18 11:28 11:37(横浜駅西口) 11:48 11:57  
12:08 12:18 12:28 12:37(横浜駅西口) 12:48 12:57





# 陣ヶ下溪谷公園 までの道



# 陣ヶ下溪谷公園



うろろうのお誘い

この公園にはいろいろと  
おもしろいところがあります。  
そこで、おもしろそうなおポイントに、  
小さなパネルを設置しました。  
ぜひお話し下さい。